

子どもの可能性（前編）

私が小学校5年生か6年生の時だったと思います。毎日学校へ提出する日記に、数日同じような内容の事を書きました。私にとっては日々の学校や家庭での生活の中で、不思議に感じた事を自分の中で真剣に考えて、そのモヤモヤを日記に書くことで、かっこよく言うとも思考を整理し、学校の先生に何らかの答えを示して欲しいと思って書いた日記でした。もちろん、日記ですので直接先生に質問して、きちんとした答えが欲しかった訳ではなく、少しでも共感してもらい一緒に考えてもらえたら、嬉しいなと思った程度だったと記憶しています。でも、先生が赤ペンで書いてくれた返事に私はがっかりしてしまい、次の日からはいつも通りの日常の様子を書くようになりました。今思えば、あの時に私の小さな小さな可能性は摘み取られたように感じます。日記の詳細は後述しますが、その経験を踏まえて私も日々子どもと関わっている中で、同じようなことをしないよう、なるべく気を付けています。出来ているかどうかは、子どもたちが大人になった時に聞いてみたいと思います。ちなみに、小学校5・6年生の時の担任の先生は女性で、私が悪いことをした時にはビンタをしてくれた、とっても熱心な先生で小学校生活の中で1番好きな先生でした。恐らく先生

が返してくれた日記の返事には全く悪気はなかったんだと思いますし、その時は嫌な思いをしましたが、今ではとても良い思い出です。

日記の内容の前に皆さんにも少し考えてもらうために、いくつか例を挙げて、子どもの考える力や可能性を少なくとも潰すようなことをしてしまっていないか、ご自身で振り返る機会にしてみてください。では1つ目、子ども（特に小学生くらいまで）が質問して来た時に皆さんはどのように応えますか？例えば、子どもが『鬼滅の刃』の、キメツってどういう意味？」と聞いて来たり、あるいは「アメリカってどこ？」とか、「語彙カって何？」とか、「ビールっておいしい？（嫌そうな顔で）」とか、「お仕事って楽しい？」とか、「100足す100っていくつ？」とか日々子どもと過ごしていると、色々な質問をされると思います。

質問にもよると思いますが、皆さんはどのように対応していますか？答え方のバリエーションの中で、いくつかパターンがあるかと思います。ここでは、私が勝手に大きく3つに分けてみます。①小学生くらいまでの質問であれば、基本即答出来る内容がほとんどなので、直ぐに答えを教える。②〇〇ちゃんはどう思う？と聞き、予測でもいいから答えてみて？と伝えて、どんどんヒントを出しながら答えに導いたり、子どもの意見の後に正

しい答えを伝える。③私の小学生時代のように、そんなつまらない質問しないでといったような雰囲気や、うるさいなあといった感じで対応してしまう。③のような対応は言葉にすると本当に最悪なように感じますが、自分自身全くしていないかと言うと、その時の機嫌によってやっつけてしまっている時もあるような気がします。気を付けます。多くの方は①のように直ぐに答えを伝えているようです。これは決して悪くはないと思いますし、子どもの知識が増えていくので、良いと思います。ただ、やはり少し時間が必要にはなりますが、②のようにまずは子どもに考えさせる対応がより良いと思います。兄弟姉妹がいると、1人の子がした質問に対して、他の子にも考える機会を与えることが出来るので、皆でクイズのような雰囲気になって楽しく素朴な疑問に答えることが出来るとなお良いと思います。ここでの、対応①②③の中で特に気を付けないといけないのは③ですが、このような対応をしてしまっただけでは、子どもの可能性を広げることは出来ないとはいけません。

次に、小学校高学年から中学生くらいまでの子どもからの質問について、いくつか例を挙げてみます。これぐらいの年齢になると素朴な疑問ももちろんありますが、結構具体的な質問になるので、皆さんにもその質問

の趣旨が分かり易い、算数・数学での疑問を例に挙げてみます。例①「何で足し算・引き算・掛け算・割り算の混じった計算は先に掛け算と割り算を先にしないといけないの？前から順番にしたらなぜいけないの？」例②「何で分数の足し算・引き算は通分しないといけないのに、掛け算と割り算は通分しなくていいの？逆に、足し算と引き算の分数は何で通分しないといけないの？そのまま分母と分子をそれぞれ足したり・引いたりしたらダメなの？」

例① ②について、皆さん子どもにきちんと答えることができますか？
と言うか、皆さんも自分が学習していた時に疑問に思っていませんでしたか？その時に親や学校の先生、または塾の先生がきちんと応えてくれましたか？もしかして「それはそういうルールなのっ！！」と言われてそのまま何の疑問も持たずに、あるいは無理やり納得して、計算の答えが合うことだけでやり過ごしてきませんでしたか？そんな私はといえば、ルールなんだから覚えるしかない、何も考えることをしませんでした。しかし、もし子どもが例①あるいは②のような疑問を持ったとしたら、それはその子の可能性を大きく伸ばすとても貴重な瞬間であることは感じていただけたと思います。まるで、私が書いた日記のように。

とは言え、上記①②の算数に対する質問に対しては中々上手く、論理的

に説明することは簡単ではないと思います。だからと言って、「それはルールなのっ！ルールなんだから、余計なことは考えないでさっさと終わらせなさいっ！！」といった対応ではなく、今の時代調べればいくらでも答えを見つけることが出来、以前サンタ通信（当時はゲゲゲ通信）に書いたとっても便利な Google 先生が教えてくれるので、「お父さん（お母さん）も分からないから一緒に調べてみようか？」といった対応は出来ると思います。

と言うことで、いつも通りまあまあの文章量になってしまったので、算数の疑問に対する答え（参考）と、中学生以上の即答はおろか、全く答えられない質問に対しての対処法と、私が小学校時代に書いた日記の内容については後編にて書いていきたいと思います。 つづく

S L 2 3 - 3 2 2 0 -

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9 階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟